

宇品を開いた阪本宗味則正

	足利将軍家・毛利輝元	阪本宗味（秀晴）則正
1541年	12代 足利義晴 坂本へ	父 大辻宗味義信 足利義晴に従い 京から坂本へ 秀晴8歳
1547年	13代 足利義輝	
1563年	毛利輝元 当主11歳	
1564年		秀晴 筑紫へ下向 37歳
1565年	足利義輝 没	
1566年		父 大辻宗味義信 没
1575年	毛利輝元 23歳	仁保島へ居住の由と毛利家より免許42歳
1576年	15代足利義昭「鞆幕府」	
1589年	輝元 広島城築城	
1600年	関ヶ原の戦い 毛利転封	
1601年	福島正則入封	福島正則公の命を享けて家を此の島(宇品島)へ移し巡守となれり 68歳
1619年	浅野長晟入封	
1624年		阪本宗味（秀晴）則正 91歳

水軍，商業の町であった近江坂本で育った阪本宗味は宇品島に移住後は島民とともに海上流通業（廻船業）に乗り出します。

そして，1672年西回りの航路が整備されて以後，元禄1700年）の頃には，全島民あげて本格的に廻船業を営みます。大型の弁財船数隻（観音丸・千歳丸等）など港としての賑わいも増します。宇品の港が開港したと言えるのはこの頃と言っていいでしょう。